



# 泉崎村

## 学校施設長寿命化計画

令和3年3月

泉崎村 教育委員会

## 目次

<b>第1章 計画の概要</b>	<b>1</b>
1 背景と目的 .....	1
2 計画の位置づけ .....	1
3 計画期間 .....	2
4 対象施設 .....	2
<b>第2章 施設の目指すべき姿</b>	<b>3</b>
1 目指すべき姿 .....	3
<b>第3章 施設の実態</b>	<b>4</b>
1 施設の運営状況・活用状況等の実態.....	4
2 老朽化状況の実態.....	12
<b>第4章 施設整備の基本的な方針等</b>	<b>28</b>
1 施設の規模・配置等の方針 .....	28
2 改修等の基本的な方針 .....	29
<b>第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等</b>	<b>32</b>
1 改修等の整備水準.....	32
2 維持管理の項目・手法等 .....	33
<b>第6章 長寿命化の実施計画</b>	<b>34</b>
1 改修等の優先順位付けと実施計画.....	34
2 長寿命化のコスト見通し・効果 .....	36
<b>第7章 長寿命化計画の継続的運用方針</b>	<b>37</b>
1 情報基盤の整備と活用 .....	37
2 推進体制等の整備.....	37
3 フォローアップ .....	38

# 第1章 計画の概要

## 1 背景と目的

我が国の公共施設は、高度経済成長期に整備されてきたものが多く、現在公共施設の老朽化対策が大きな課題となっています。

本村も、高度経済成長により需要が拡大した時期に公共施設及びインフラ施設（以下、「公共施設等」という。）を集中的に整備し、現状として、完成後30年を超える公共施設等が大部分を占め、老朽化が進んでいます。さらに、東日本大震災からの復旧・復興にも対応していく必要があります。

公共施設等は、大規模改修や更新(建替えなど)の対応を迫られる一方で、地方交付税等の減額、村債の償還金及び扶助費等の増額が見込まれることから、一層財政状況は厳しさを増すことが想定されます。その中で、すべての公共施設等を維持・更新することは困難な状況です。

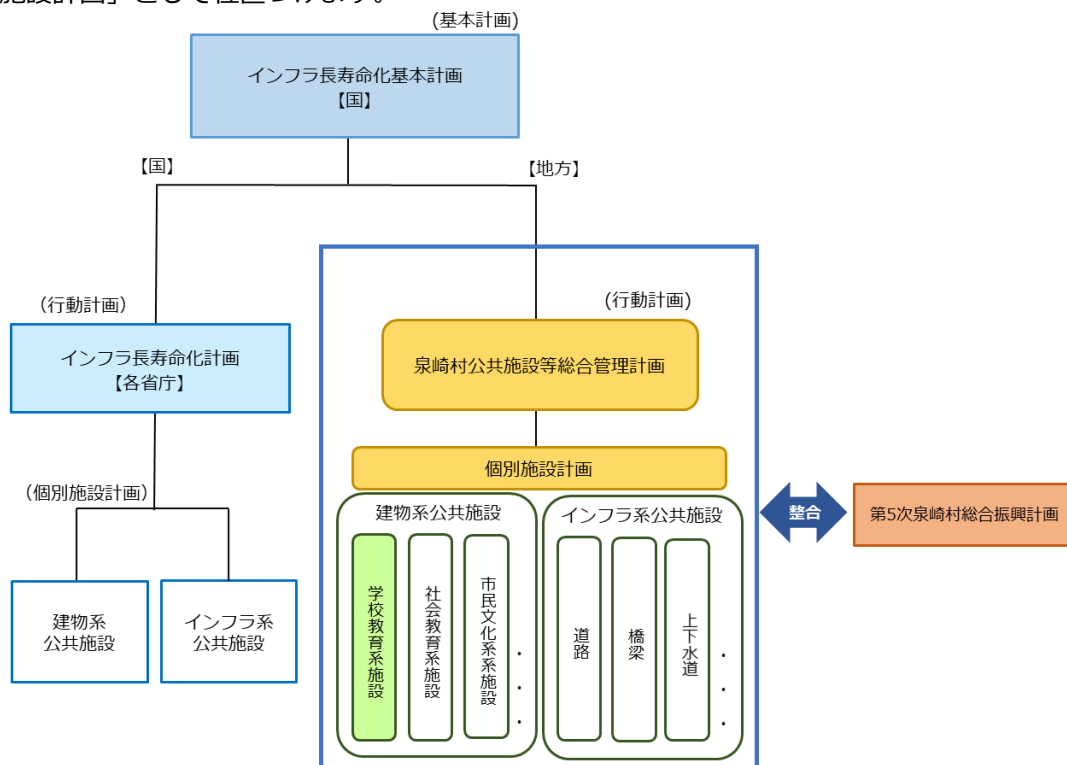
2013年度、国は「インフラ長寿命化基本計画」を策定し、自治体に対し、インフラの維持管理・更新等を着実に推進するための中期的な取り組みの方向性を明らかにし、整備の基本的な方針として、「公共施設等総合管理計画」を2016年度までに策定するよう要請しました。

これを受け、本村は2016年度に「泉崎村公共施設等総合管理計画」を策定し、公共施設等の適切な規模とあり方を検討し、公共施設等のマネジメントを推進することで、住民が求める公共サービスの水準を維持するのに必要な公共施設等の機能を維持し、可能な限り将来世代の負担を減らす最適な公共施設等の配置を実現するための基本方針を示しました。

本計画は「泉崎村公共施設等総合管理計画」の下位計画である「個別施設計画」のひとつであり、学校教育施設の施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として策定するものです。

## 2 計画の位置づけ

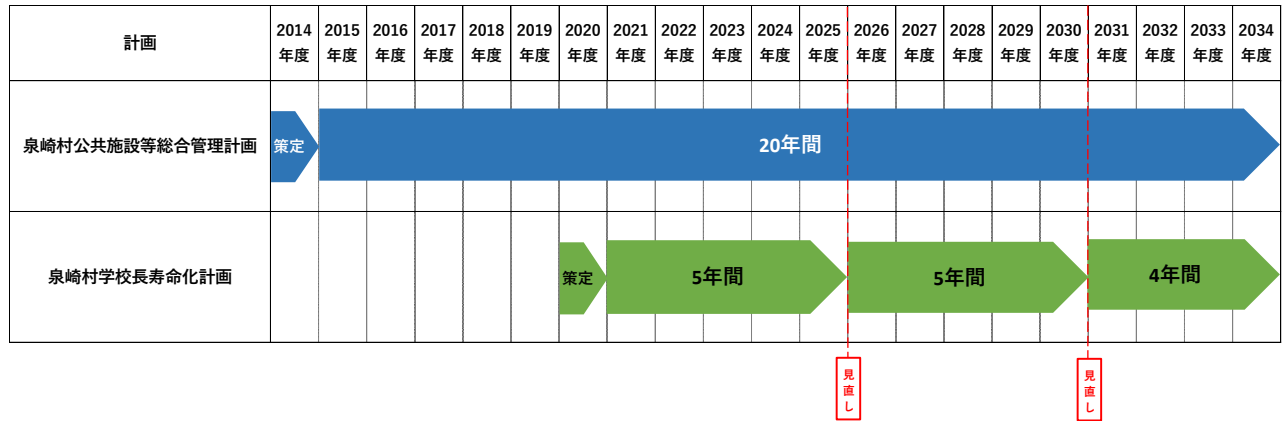
本計画は、公共施設等総合管理計画の下位計画として、国のインフラ長寿命化基本計画の体系における「個別施設計画」として位置づけます。



### 3 計画期間

本計画の開始年度は 2021 年度(令和3年)とし、終了年度は上位計画の公共施設等総合管理計画の終了年度に合わせ 2034 年度とします。また、本計画は5年ごとに見直すことを基本とし、村の財政状況や制度変更及び上位関連計画の見直しなど、計画を見直す必要が生じた場合にも適宜見直しを行います。

<計画期間>



### 4 対象施設

本計画の対象施設は、教育委員会が所管する学校教育施設5施設とします。

施設分類	施設名	建物数
学校教育施設	泉崎第一小学校	6棟
	泉崎第二小学校	5棟
	泉崎中学校	3棟
	泉崎幼稚園	2棟
	泉崎村学校給食センター	3棟

計 19 棟

## 第2章 施設の目指すべき姿

### 1 目指すべき姿

#### 教育目標

本村の教育目標は以下の通りです。

##### 泉崎村教育目標

**強い子** . . . . . 心身ともに健康でがまん強い子どもの育成（健康教育を中心に）

**明るい子** . . . . . 落ち着いて友達と仲良く遊ぶ子どもの育成（安全教育を中心に）

**素直な子** . . . . . 順応性に富みきまりを守る子どもの育成（情操教育を中心に）

#### 学校教育系施設の目指すべき姿

「泉崎村教育振興計画」に則り、子どもの教育プランを実現するための基盤として必要な施設の充実を図ると共に、安全安心して利用できるよう施設の維持管理を行っていかねばなりません。

同時に、今後の学校教育施設は児童・生徒だけでなく地域の人々にも利用できる公共の場としての役割を担うべく、継続的に機能や設備の改善も図っていきます。

## 第3章 施設の実態

### 1 施設の運営状況・活用状況等の実態

#### (1) 学校施設

本計画では、個別施設ごとに利用・運営状況や修繕・工事履歴の調査、また簡易的な老朽化診断等を実施して、施設の現状と課題を整理した上で、今後の方向性等について検討し、個別施設ごとの「施設カルテ」を作成しました。

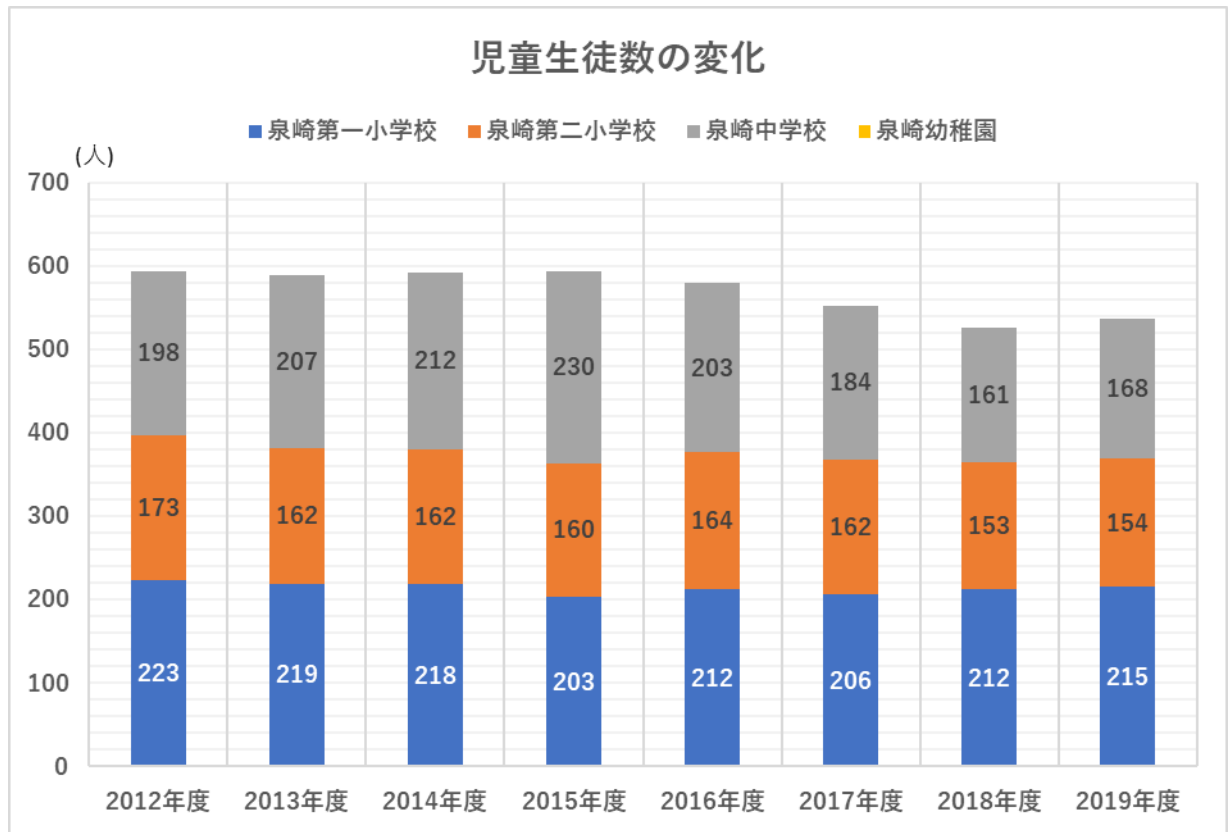
#### ① 対象施設一覧

本計画の対象施設は以下の通りとします。

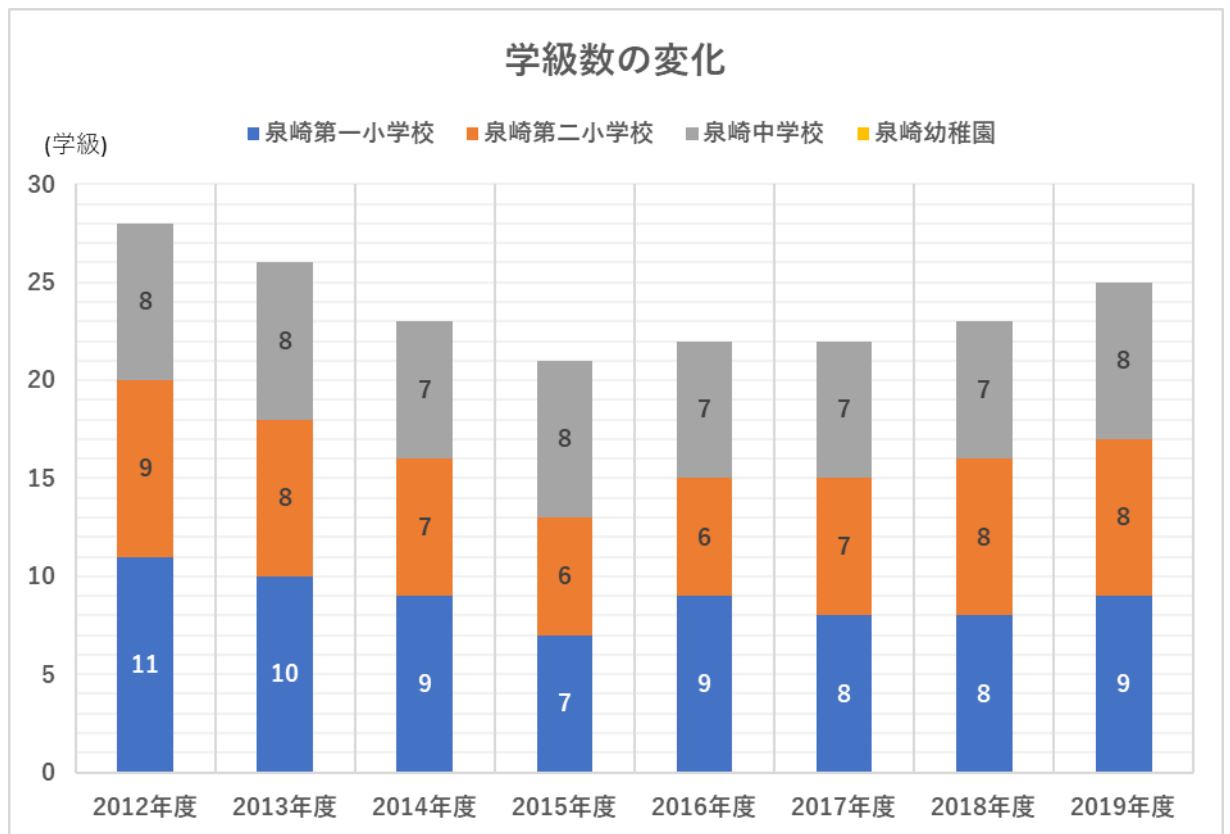
施設名	建物情報							
	建物名	用途	構造	階数	延床面積	西暦	和暦	築年数
泉崎第一小学校	校舎1（プール付属室）	校舎	S	1	33㎡	1969年	S44	51年
	校舎2（ポンプ室）	校舎	S	1	6㎡	1979年	S54	41年
	校舎3（特別教室棟）	校舎	RC	2	399㎡	1983年	S58	37年
	校舎4（プール付属便所）	校舎	S	1	7㎡	1985年	S60	35年
	校舎5（普通教室棟）	校舎	RC	1	3631㎡	1994年	H6	26年
	屋内運動場	体育館	S	1	905㎡	1979年	S54	41年
泉崎第二小学校	校舎1（プール付属室）	校舎	S	1	47㎡	1968年	S43	52年
	校舎2（物置）	校舎	S	1	43㎡	1974年	S49	46年
	校舎3（ポンプ室）	校舎	RC	1	6㎡	1981年	S56	39年
	校舎4	校舎	RC	2	3629㎡	1989年	H元	31年
	屋内運動場	体育館	S	1	905㎡	1981年	S56	39年
泉崎中学校	校舎1	校舎	RC	2	3825㎡	1987年	S62	33年
	校舎2（部室）	校舎	S	1	75㎡	1988年	S63	32年
	屋内運動場	体育館	RC	1	2099㎡	1988年	S63	32年
泉崎幼稚園	園舎1	園舎	RC	1	2030㎡	1995年	H7	25年
	園舎2（屋外便所）	園舎	S	1	41㎡	1995年	H7	25年
泉崎村学校給食センター	車庫	その他	S	1	66㎡	1973年	S48	47年
	調理室棟	給食センター	S	1	282㎡	1974年	S49	46年
	ポンプ室	その他	S	1	11㎡	1974年	S49	46年

② 児童生徒数及び学級数の変化

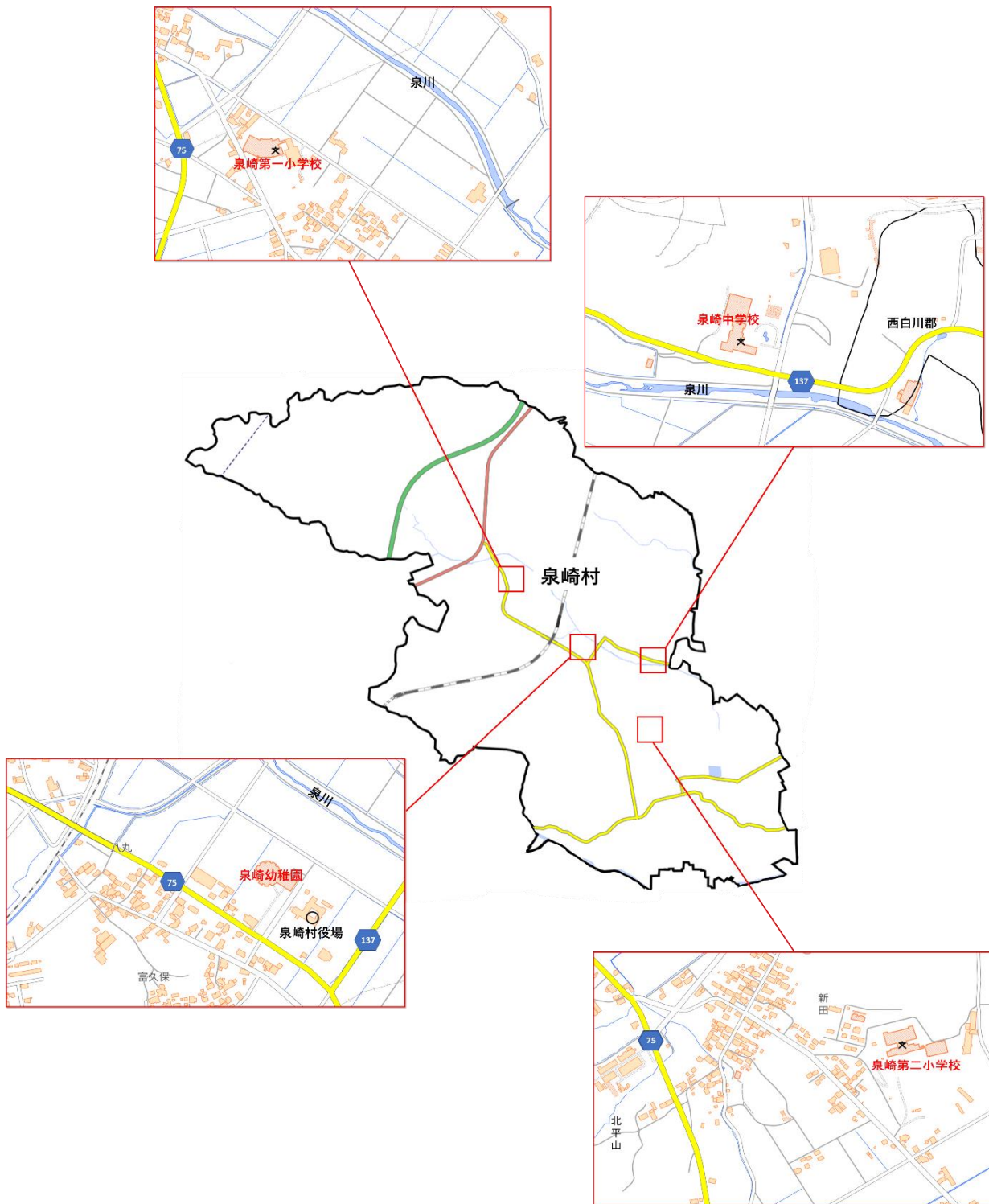
最近の児童・生徒数の変化は以下の通りです。



最近の学級数の変化は以下の通りです。



③施設の配置状況



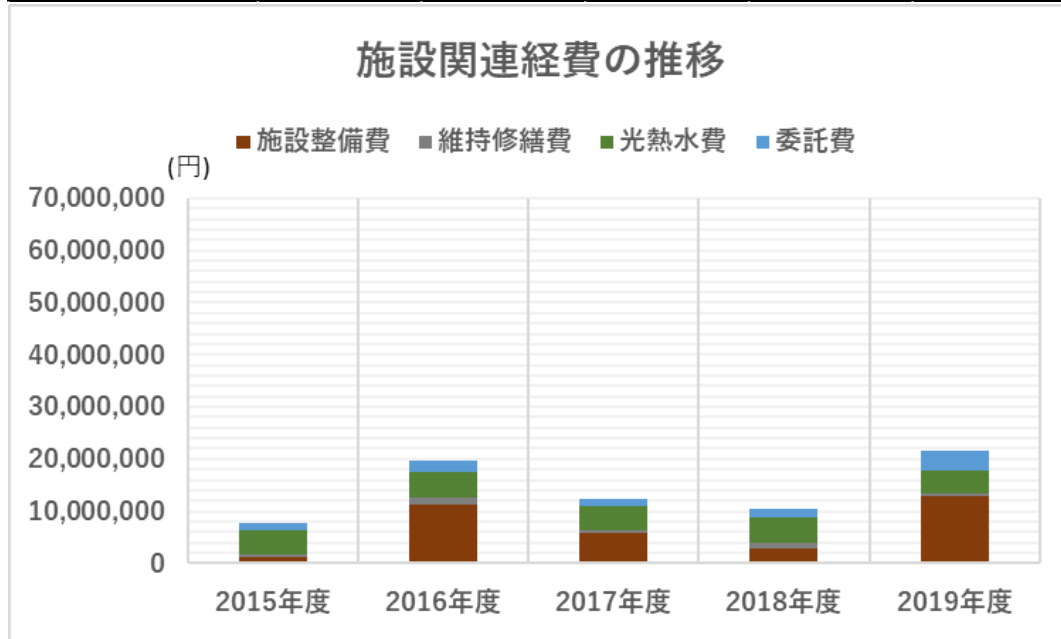
④施設関連経費の推移

対象施設ごとの過去5年間の施設関連経費の推移は以下の通りです。

【泉崎第一小学校】

(円)

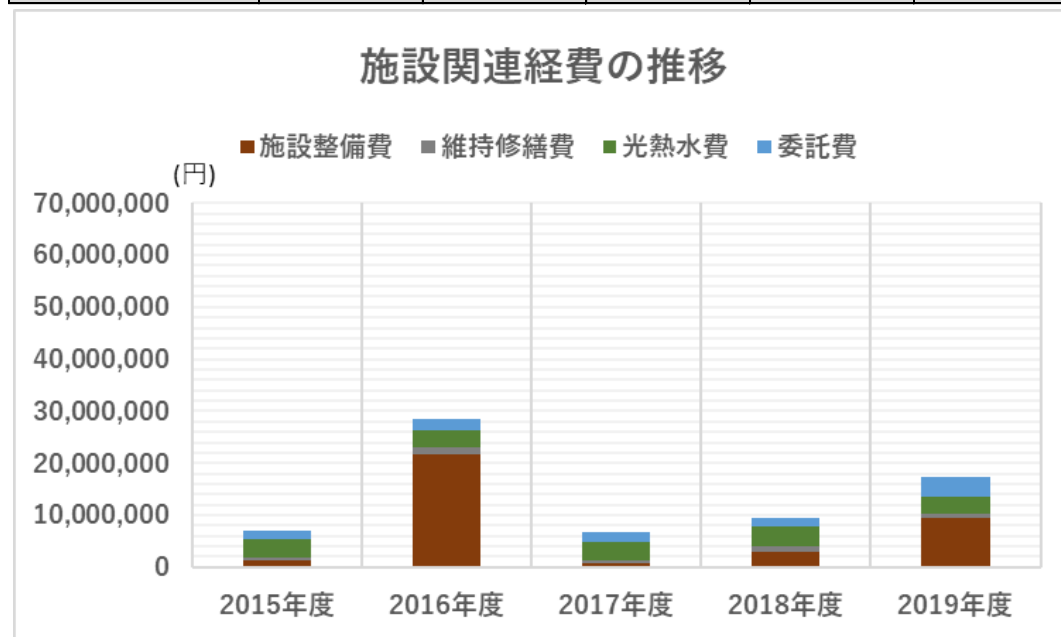
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
施設整備費	1,242,000	11,206,080	5,810,400	2,754,000	12,953,125
維持修繕費	593,991	1,431,598	491,206	1,053,054	462,562
光熱水費	4,441,029	4,742,678	4,558,896	4,947,877	4,494,977
委託費	1,568,527	2,180,640	1,414,920	1,806,960	3,786,600
合計	7,845,547	19,560,996	12,275,422	10,561,891	21,697,264



【泉崎第二小学校】

(円)

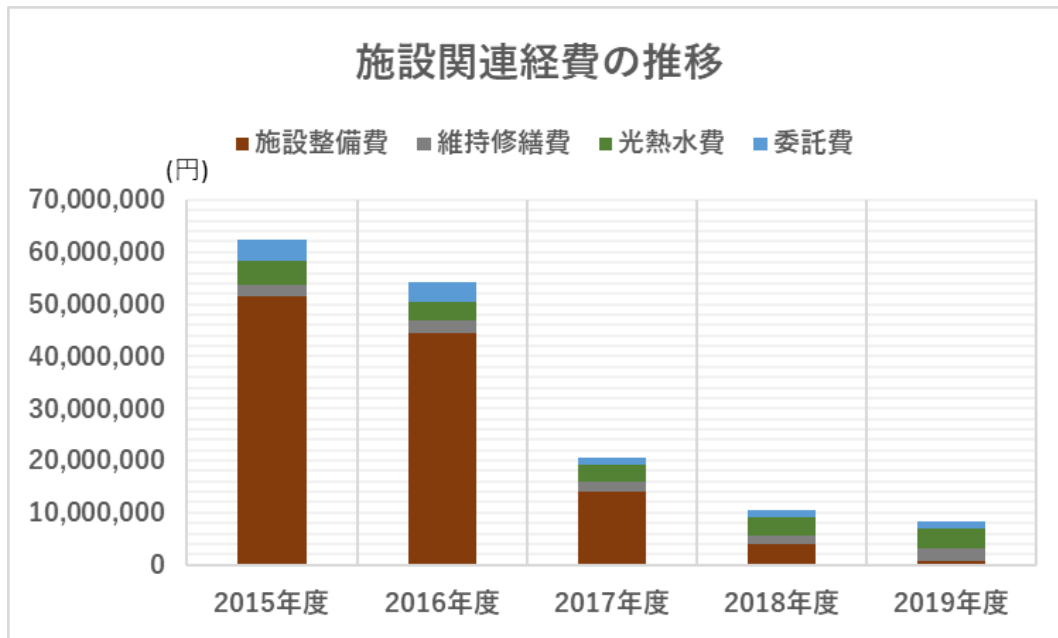
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
施設整備費	1,242,000	21,615,120	806,544	2,839,320	9,513,900
維持修繕費	593,991	1,474,400	558,681	1,321,740	677,069
光熱水費	3,604,805	3,302,451	3,515,362	3,781,826	3,281,371
委託費	1,568,527	2,108,604	1,778,924	1,553,204	3,744,058
合計	7,009,323	28,500,575	6,659,511	9,496,090	17,216,398



【泉崎中学校】

(円)

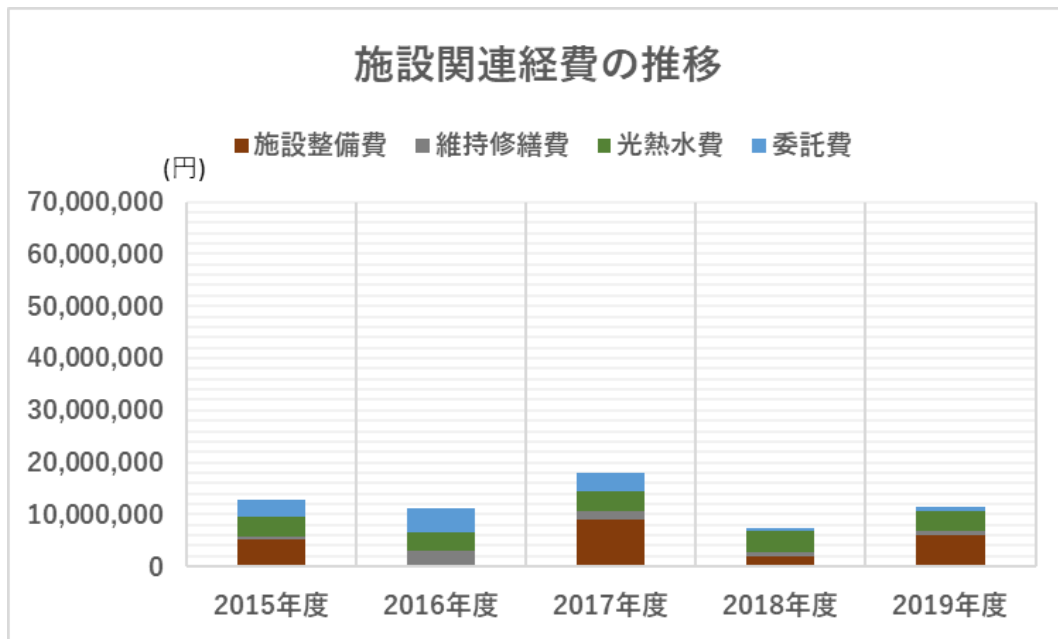
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
施設整備費	51,491,808	44,593,200	14,071,320	3,998,052	730,860
維持修繕費	2,270,591	2,270,807	1,771,456	1,731,828	2,530,802
光熱水費	4,581,006	3,674,798	3,370,282	3,330,084	3,581,824
委託費	4,015,437	3,663,576	1,309,176	1,553,148	1,508,500
合計	62,358,842	54,202,381	20,522,234	10,613,112	8,351,986



【泉崎幼稚園】

(円)

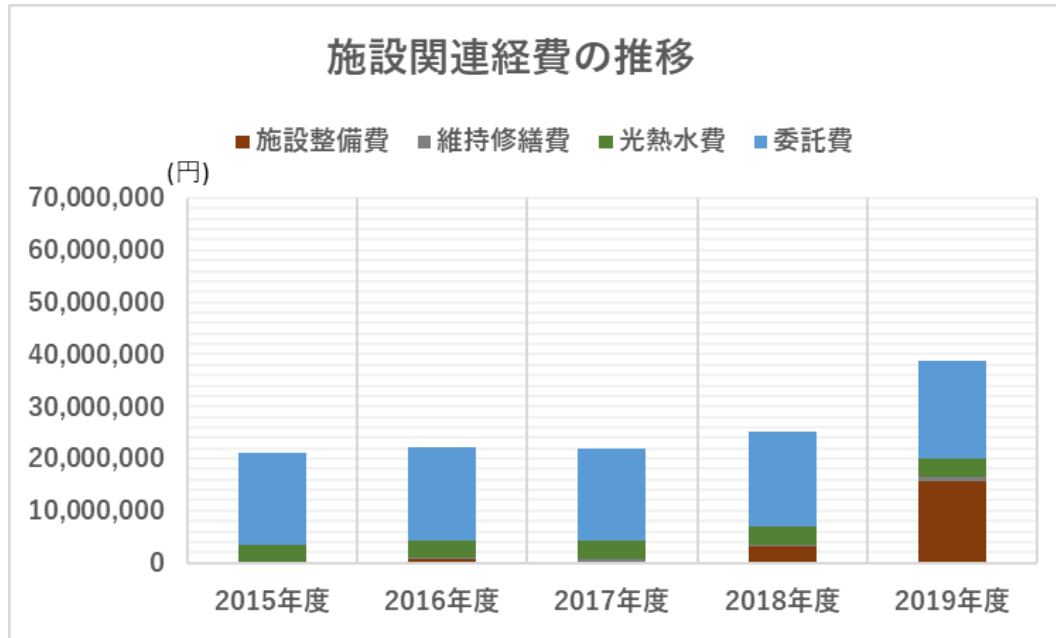
	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
施設整備費	5,172,120	112,320	9,099,000	2,075,328	6,122,660
維持修繕費	694,300	2,831,617	1,456,056	777,816	699,050
光熱水費	3,727,411	3,751,876	3,809,243	3,920,288	3,934,793
委託費	3,178,939	4,429,303	3,738,075	698,856	759,094
合計	12,772,770	11,125,116	18,102,374	7,472,288	11,515,597



【泉崎村学校給食センター】

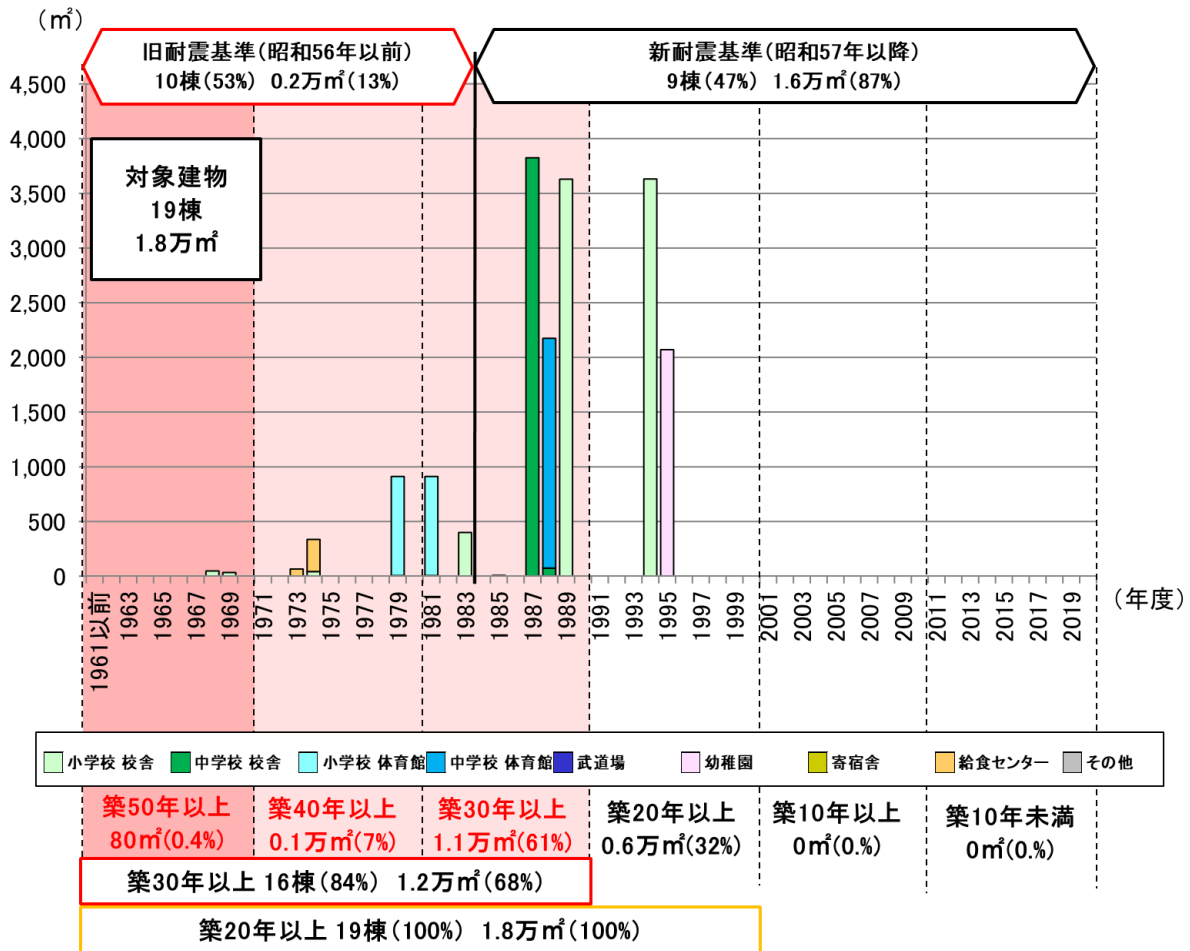
(円)

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
施設整備費	0	598,320	173,340	3,165,000	15,785,000
維持修繕費	108,129	314,226	539,438	389,026	736,922
光熱水費	3,359,790	3,414,606	346,938	344,570	351,138
委託費	17,738,184	17,774,884	17,858,584	18,293,184	18,767,206
合計	21,206,103	22,102,036	22,040,742	25,292,780	38,800,513



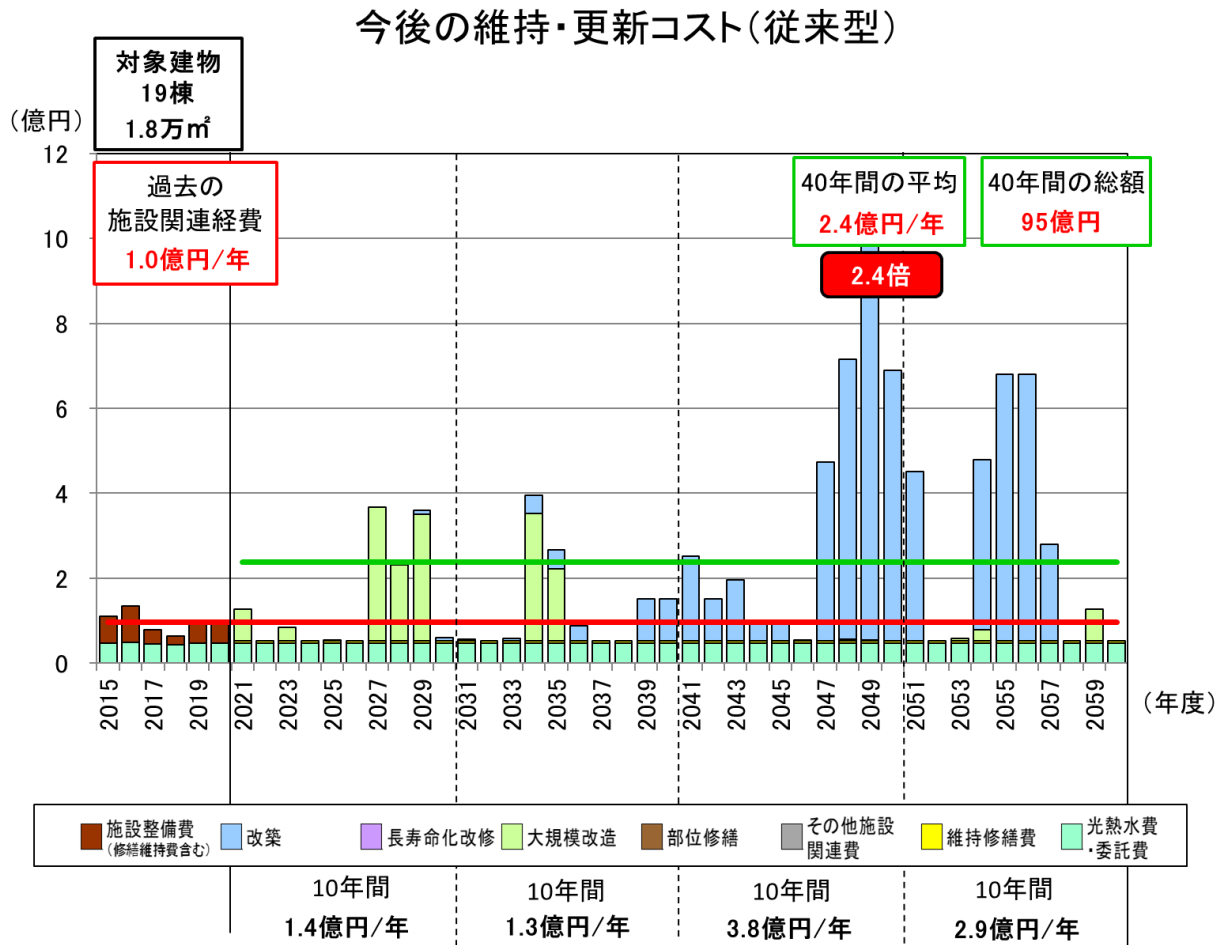
⑤施設の保有量

築年別整備状況



本計画の対象建物のうち84%が築30年を越えており、旧耐震基準の建物も10棟あることから、長寿命化による対応を検討する必要があります。特に旧耐震基準でなおかつ耐震工事が済んでいない建物は対応が急がれます。

⑥今後の維持・更新コスト（従来型）



今後の維持・更新コストを従来型（長寿命化対策を行わない条件）で試算したところ、上記の通りのグラフとなりました。計画期間内で総額95億円（年平均2.4億円）の費用が必要となってきます。グラフからもわかるように、施設の建築年によって発生する費用のバラつきがかなり大きくなります。

<コスト試算条件>

全ての施設の総面積に対して、以下の条件の工事単価を掛け合わせて算出しています。

基準年度	2020年	※翌年度より40年間の試算	
	更新周期	工事単価	工事期間
改築	60年 ※実施時期を経過した建物は10年以内に改築する	¥330,000/㎡	3年
大規模改造	30年	¥137,500/㎡	2年

## 2 老朽化状況の実態

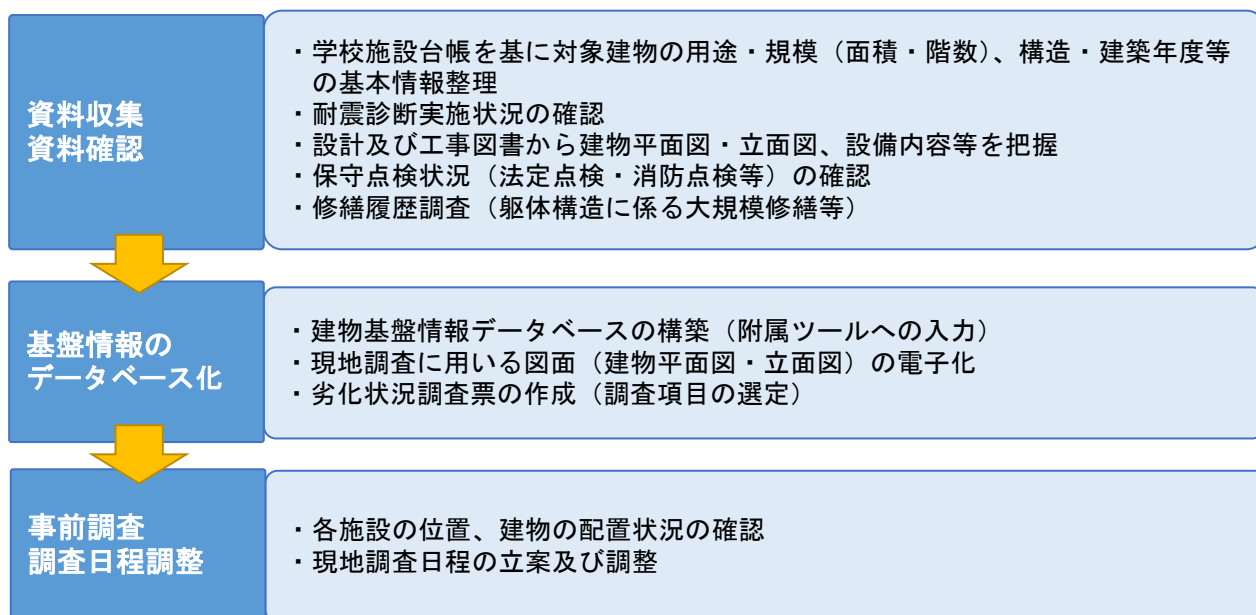
### (1) 学校施設

#### (1) 構造躯体の健全性評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

##### ① 机上（資料）調査

本計画の対象施設について、現地劣化現況調査着手前に各施設の資料収集と机上調査を行い、事前に施設概要を整理し、把握した上で現地での劣化状況調査を実施しました。

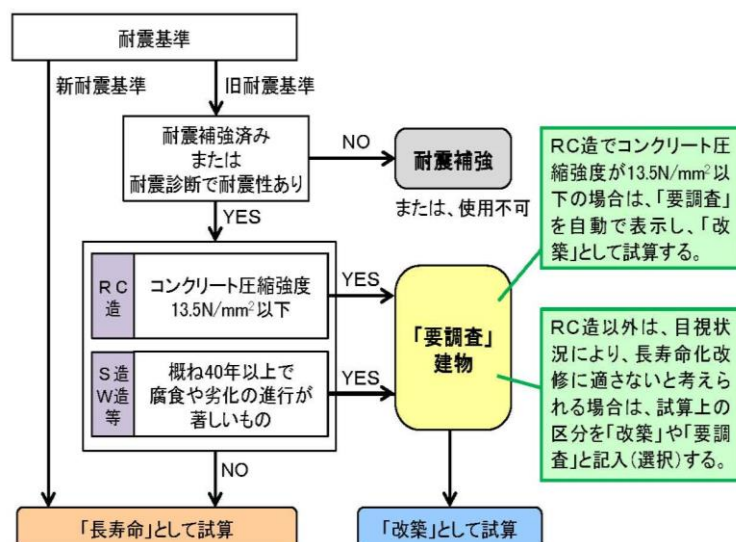
具体的な調査作業フローは以下の通りです。



##### ② 現地劣化状況調査（目視調査）

机上調査から各施設の劣化が進んでいる部位や問題点、要望等を把握した上で専門家（国土交通省指定機関 日本建築検査協会株式会社）による現地劣化状況調査を実施しました。

劣化状況調査においては、「改築」と「長寿命」の区分を明らかにするための「躯体構造の健全性の把握」（解説書 p.20～22 記載）と「劣化状況評価」を行うための「躯体以外の劣化状況の把握」（解説書 p.24 及び 26）に関する調査を行いました。



### ③劣化状況評価

現地劣化状況調査の結果を踏まえ、解説書に記載された基準をベースに各部位毎に4段階の評価基準を定め、建物の劣化状況評価を行った。更に、評価結果をもとにして100点満点で指数化し、健全度として表現した。調査部位ごとの評価基準と健全度の算出方法は以下の通りとした。

#### ■屋上・屋根

評価基準	A	全体的に概ね良好（劣化については汚れている程度もしくは改修後10年以内）
	B	部分的に不良箇所が存在する（変質・ひび割れ・ふくれ・さび・シーリング劣化・排水不良等）
	C	広範囲に不良箇所が存在し最上階の天井に漏水の痕跡が見られる（不具合発生の兆し）
	D	広範囲に不良箇所が存在し最上階の天井に漏水が複数箇所発生している（安全上・機能上問題あり）
	-	広範囲（25%以上の面積）または随所（5箇所以上）に劣化事象が存する場合は評価を1段下げる

#### ■外壁・サッシ

評価基準	A	全体的に概ね良好（劣化については汚れている程度もしくは改修後10年以内）
	B	部分的に不良箇所が存在する（変質・ひび割れ・浮き・欠損・剥離・さび汁・シーリング劣化等）
	C	広範囲に不良箇所（爆裂等）が存在し内部で漏水が小規模で見られる（不具合発生の兆し）
	D	広範囲に不良箇所（爆裂等）が存在し内部で漏水が複数見られる（安全上・機能上問題あり）
	-	広範囲（25%以上の面積）または随所（5箇所以上）に劣化事象が存する場合は評価を1段下げる

#### ■内装仕上げ・電気設備・機械設備

評価基準	A	経過年数が新築時または過半の床面積にわたる改修をおこなった年度から20年未満
	B	経過年数が新築時または過半の床面積にわたる改修をおこなった年度から40年未満
	C	経過年数が新築時または過半の床面積にわたる改修をおこなった年度から40年以上
	D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある
	-	広範囲（25%以上の面積）または随所（5箇所以上）に劣化事象が存する場合は評価を1段下げる

#### ■健全度

$$\text{総和(部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分)} \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。  
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

(右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例)

	評価	評価点	配分	
1 屋根・屋上	C	40	5.1	= 204
2 外壁	D	10	17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	75	22.4	= 1,680
4 電気設備	A	100	8.0	= 800
5 機械設備	C	40	7.3	= 292
計				3,148
÷				60
健全度				52

④調査結果

前述の通りの調査手法・基準に従い、実施した学校施設の老朽化状況は以下の通りとなりました。

[泉崎第一小学校]


通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	建物基本情報				構造躯体の健全性							劣化状況評価								
					用途		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定				健全度(100点満 点)					
					学校 種別	建物 用途				西暦	和暦	築 年数	基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度	試算上 の区分		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備
1	0448	泉崎第一小学校	校舎1 (プール付属室)	002-3	小学校	校舎	S他	1	33	1969	S44	51	旧	-	-	-	-	要調査	D	A	C	C	D	51
2	0448	泉崎第一小学校	校舎2 (ポンプ室)	003-2	小学校	校舎	S他	1	6	1979	S54	41	旧	-	-	-	-	要調査	C	B	C	C	D	46
3	0448	泉崎第一小学校	校舎3 (特別教室棟)	004	小学校	校舎	RC	2	399	1983	S58	37	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75
4	0448	泉崎第一小学校	校舎4 (プール付属便所)	002-4	小学校	校舎	S他	1	7	1985	S60	35	新	-	-	-	-	長寿命	B	A	B	B	B	82
5	0448	泉崎第一小学校	校舎5 (普通教室棟)	008	小学校	校舎	RC	1	3,631	1994	H6	26	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62
6	0448	泉崎第一小学校	屋内運動場	003-1	小学校	体育館	S	1	905	1979	S54	41	旧	済	済	2013	21.0	長寿命	B	B	C	C	D	49

通し 番号	施設名	建物名	構造	目視調査による構造躯体に関する所見
1	泉崎第一小学校	校舎1 (プール付属室)	S他	特段異常は確認されなかった。
2	泉崎第一小学校	校舎2 (ポンプ室)	S他	特段異常は確認されなかった。
3	泉崎第一小学校	校舎3 (特別教室棟)	RC	特段異常は確認されなかった。
4	泉崎第一小学校	校舎4 (プール付属便所)	S他	特段異常は確認されなかった。
5	泉崎第一小学校	校舎5 (普通教室棟)	RC	陸屋根で目地材の浮き、欠損が確認された。軒天に漏水痕が確認された。詳細な調査が必要である。
6	泉崎第一小学校	屋内運動場	S	特段異常は確認されなかった。




1 校舎1 (プール付属室) / 鉄骨造他(補強コンクリートブロッ

調査部位および項目	状況	
屋上の漏水		特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水		特段異常は確認されなかった。


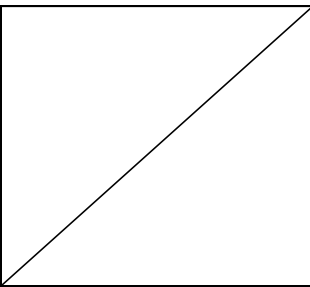
2 校舎2 (ポンプ室) /鉄骨造他(補強コンクリートブロック造)

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水		/	特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水			特段異常は確認されなかった。

3 校舎3 (特別教室棟) /鉄筋コンクリート造

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水		/	特段異常は確認されなかった。


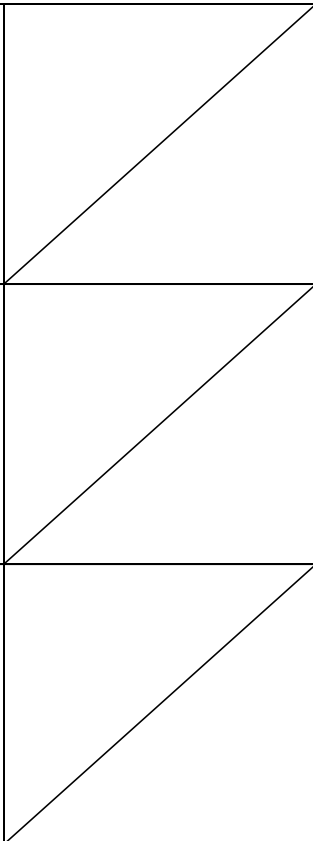


4 校舎4（プール付属便所）/鉄骨造他（補強コンクリートブロック造）

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水			

5 校舎5（普通教室棟）/鉄筋コンクリート造


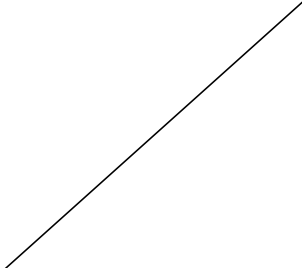
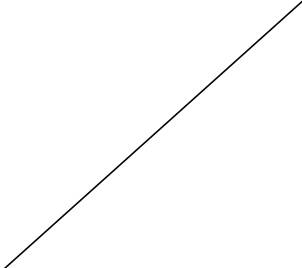
調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			アスファルトシングル屋根は特段異常は確認されなかった。雨漏りについては修繕済と報告を受けた。陸屋根で目地材の浮き、欠損が確認された。
			軒天に漏水痕が確認された。詳細な調査が必要である。
外壁の漏水			クラックが確認された他、特段異常は確認されなかった。

6 屋内運動場/鉄筋コンクリート造 屋根：鉄骨造


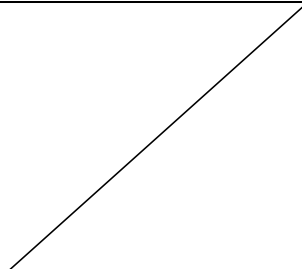

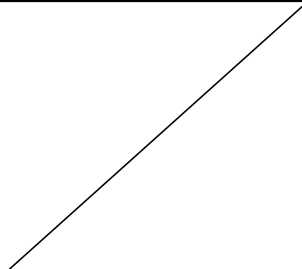
調査部位および項目	状況		
<p>屋上の漏水</p>			<p>特段異常は確認されなかった。</p>
<p>外壁の漏水</p>			<p>特段異常は確認されなかった。</p>
<p>筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況</p>			<p>特段異常は確認されなかった。</p>








8 校舎2（物置）/鉄骨造他（補強コンクリートブロック造）

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水			

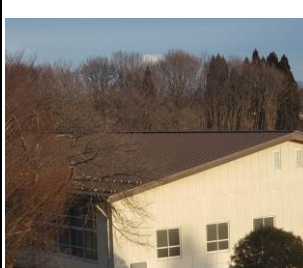

9 校舎3（ポンプ室）/鉄筋コンクリート造

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水			

10 校舎4/鉄筋コンクリート造

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			シングル葺き屋根に浮き・うねりが確認された。軒天井に漏水痕が散見された。詳細な調査が必要である。
			防水層にふくれ・破れ等が確認された。詳細な調査が必要である。
外壁の漏水			白華現象やクラックが散見された。詳細な調査が必要である。

11 屋内運動場/鉄筋コンクリート造 屋根：鉄骨造

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水		/	
外壁の漏水			
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況			
		特段異常は確認されなかった。	
		特段異常は確認されなかった。	
		特段異常は確認されなかった。	

【泉崎中学校】


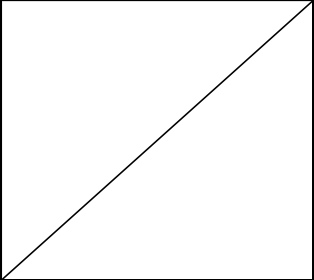
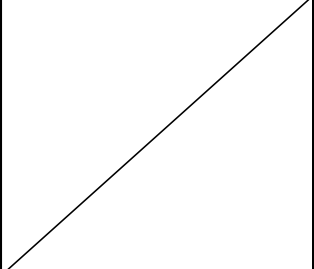
建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価								
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築 年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点満 点)	
					学校 種別	建物 用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度							試算上 の区分
12	3724	泉崎中学校	校舎1	009 -1,2	中学校	校舎	RC	2	3,825	1987	S62	33	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	62
13	3724	泉崎中学校	校舎2(部室)	011	中学校	校舎	S	1	75	1988	S63	32	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75
14	3724	泉崎中学校	屋内運動場	010 -1~3	中学校	体育館	RC	1	2,099	1988	S63	32	新	-	-	-	-	長寿命	B	B	B	B	B	75

通し 番号	施設名	建物名	構造	目視調査による構造躯体に関する所見
12	泉崎中学校	校舎1	RC	陸屋根部分に不具合が確認された。渡り廊下の天井に漏水痕が確認された。軒天井に漏水とみられる塗装の剥がれが散見された。詳細な調査が必要である。
13	泉崎中学校	校舎2(部室)	S	特段異常は確認されなかった。
14	泉崎中学校	屋内運動場	RC	特段異常は確認されなかった。

1.2 校舎1/鉄筋コンクリート造

調査部位および項目	状況	
屋上の漏水		
		
外壁の漏水		

1.3 校舎2（部室）/鉄骨造

調査部位および項目	状況			
屋上の漏水 				特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水				特段異常は確認されなかった。

1.4 屋内運動場/鉄筋コンクリート造 屋根：鉄骨造





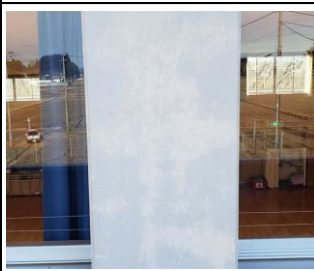
調査部位および項目	状況			
屋上の漏水 				特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水				特段異常は確認されなかった。
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況 				特段異常は確認されなかった。

[泉崎幼稚園]


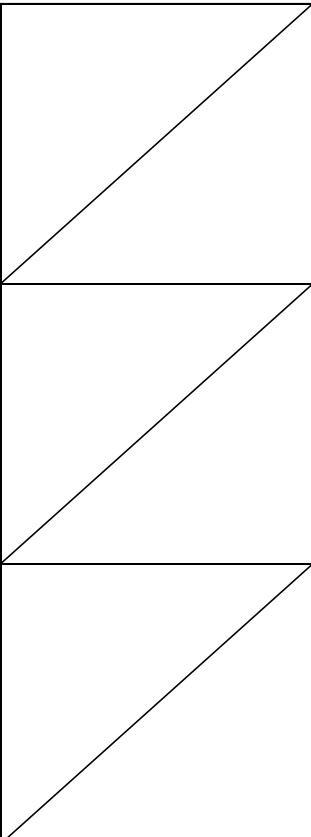

通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	建物基本情報							構造躯体の健全性					劣化状況評価									
				棟番号	用途		構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定		屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点満点)			
					学校種別	建物用途				西暦	和暦	築年数	基準	診断	補強	調査年度							圧縮強度	試算上の区分	
15	6696	泉崎幼稚園	校舎1	004-1・2	幼稚園	園舎	RC	1	2,030	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	C	B	B	B	B	62
16	6696	泉崎幼稚園	園舎2(屋外便所)	005	幼稚園	園舎	S	1	41	1995	H7	25	新	-	-	-	-	長寿命	C	B	B	B	B	B	72

通し番号	施設名	建物名	構造	目視調査による構造躯体に関する所見
15	泉崎幼稚園	校舎1	RC	軒天井に白華現象が確認された。ホール柱にクラック及び白華現象が確認された。詳細な調査が必要である。
16	泉崎幼稚園	園舎2(屋外便所)	S	特段異常は確認されなかった。

1.5 園舎1/鉄筋コンクリート造

調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			勾配屋根には、特段異常は確認されなかった。
			陸屋根に不具合が確認された。軒天井に白華現象が確認された。詳細な調査が必要である。
外壁の漏水			ホール柱にクラック及び白華現象が確認された。詳細な調査が必要である。

16 園舎2（屋外便所）/鉄骨造




調査部位および項目	状況		
屋上の漏水			屋根全体の腐食劣化が確認されたが、漏水は確認されなかった。
外壁の漏水			クラック等は確認されたが、特段異常は確認されなかった。
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況			特段異常は確認されなかった。

【泉崎村学校給食センター】





建物基本情報											構造躯体の健全性					劣化状況評価								
通し 番号	学校 調査 番号	施設名	建物名	棟番号	用途		構造	階数	延床 面積 (㎡)	建築年度		築 年数	耐震安全性			長寿命化判定		屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点満 点)	
					学校 種別	建物 用途				西暦	和暦		基準	診断	補強	調査 年度	圧縮 強度							試算上 の区分
17	k601	泉崎村学校給食センター	車庫	003	給食センター	その他	S	1	66	1973	S48	47	旧	-	-	-	-	要調査	C	B	C	C	D	46
18	k601	泉崎村学校給食センター	調理室棟	001	給食センター	給食センター	S	1	282	1974	S49	46	旧	-	-	-	-	要調査	C	C	C	C	D	36
19	k601	泉崎村学校給食センター	ポンプ室	002	給食センター	その他	S	1	11	1974	S49	46	旧	-	-	-	-	要調査	C	B	C	C	D	46

通し 番号	施設名	建物名	構造	目視調査による構造躯体に関する所見
17	泉崎村学校給食センター	車庫	S	天井組鉄骨の発錆が確認された。詳細な調査が必要である。
18	泉崎村学校給食センター	調理室棟	S	天井に漏水痕等が確認された。外壁にクラック、白華現象が確認された。屋根下の露出鉄骨の発錆が確認された。詳細な調査が必要である。
19	泉崎村学校給食センター	ポンプ室	S	天井組鉄骨の発錆が確認された。詳細な調査が必要である。

1.7 車庫/鉄骨造

調査部位および項目	状況	
屋上の漏水		特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水		特段異常は確認されなかった。
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況		天井組鉄骨の発錆が確認された。詳細な調査が必要である。

18 調理室棟/鉄骨造

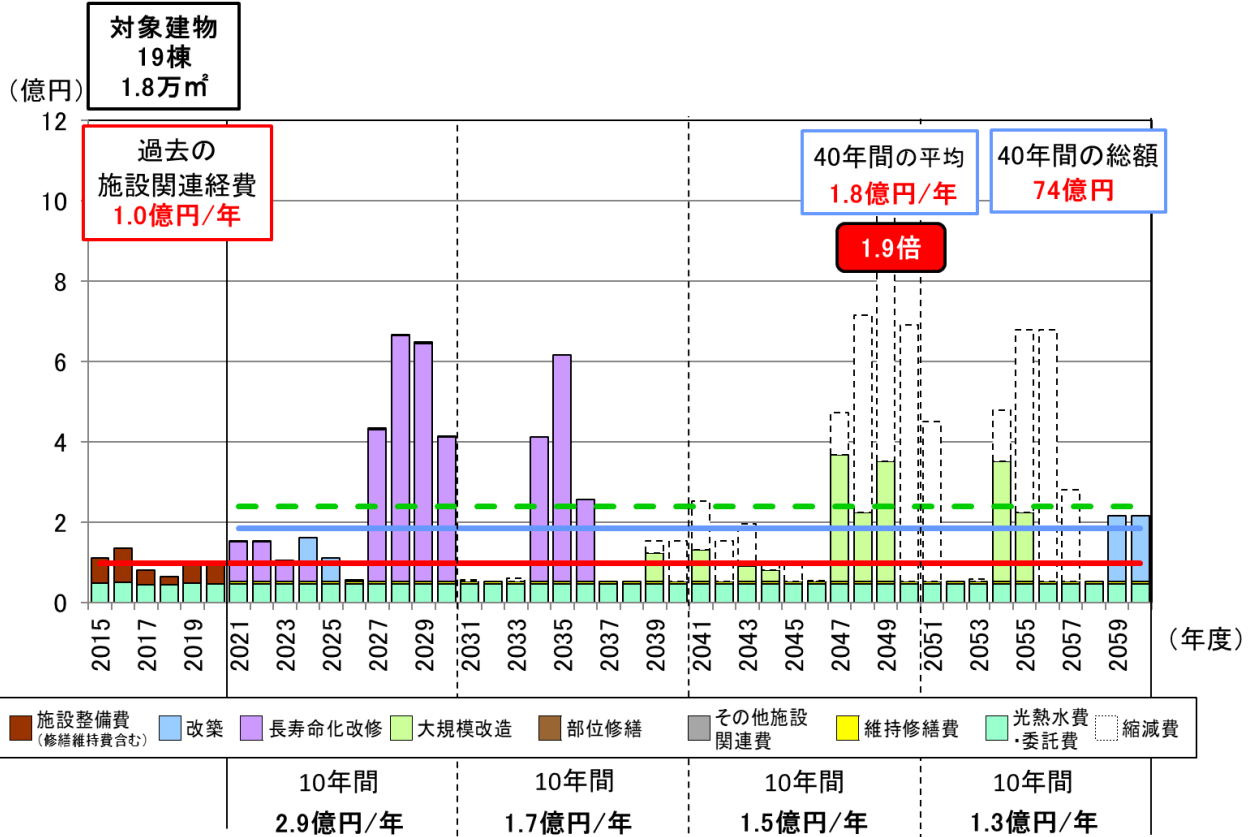
調査部位および項目	状況	
屋上の漏水		 天井に漏水痕等が確認された。詳細な調査が必要である。
外壁の漏水		 外壁にクラック、白華現象が確認された。詳細な調査が必要である。
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況		 内部仕上げて被覆されているため、確認できなかったが、屋根下の露出鉄骨の発錆が確認された。

19 ポンプ室/鉄骨造

調査部位および項目	状況	
屋上の漏水		特段異常は確認されなかった。
外壁の漏水		特段異常は確認されなかった。
筋交部のたわみ状況 鉄骨部の腐食状況		天井組鉄骨の発錆が確認された。詳細な調査が必要である。

(2)今後の維持・更新コストの把握（長寿命化型）

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



上記の調査結果を踏まえ、長寿命化対策を施した後の維持・更新コストは、計画期間40年間で約74億円(1.8億円/年)となり、従来型の維持・更新コストに比べて21億円(約22%)のコストダウンとなります。

<試算条件>

全ての施設の総面積に対して、以下の条件の工事単価を掛け合わせて算出しています。

基準年度	2020年		※翌年度より40年間の試算				
	更新周期	工事期間	工事単価				
			校舎	体育館	給食場	武道館	その他
改築	80年	3年	¥330,000/㎡	¥360,000/㎡	¥330,000/㎡	¥330,000/㎡	¥360,000/㎡
	※実施時期を経過した建物は10年以内に改築する						
長寿命化改修	40年	2年	¥198,000/㎡	¥216,000/㎡	¥198,000/㎡	¥198,000/㎡	¥216,000/㎡
	※実施時期を経過した建物は10年以内に改築する						
大規模改造	20年	1年	¥82,500/㎡	¥79,200/㎡	¥82,500/㎡	¥72,600/㎡	¥90,000/㎡
	※改築、長寿命化改修時期と重なる場合は実施しない						
部位修繕	D評価	今後5年以内に実施					
	C評価	今後10年以内に実施 今後10年以内に改築・長寿命化改修・大規模改造を実施する場合を除く					
	A評価	今後10年以内の長寿命化改修から部位修繕相当額を差し引く					

## 第4章 施設整備の基本的な方針等

### 1 施設の規模・配置等の方針

#### (1)施設の長寿命化計画の基本方針

公共施設全体の実態や目指すべき姿等を踏まえ、今後の学校施設の規模や配置計画に関する基本方針を以下に定めます。

##### 公共施設等総合管理計画基本方針

- 保有する公共施設の全体面積を人口減少や人口構造の変化を踏まえ、17%削減します。
- 新規の施設整備においては、複合化もしくは統廃合を原則とし、単独施設の新規整備は特段の理由がない限り行いません。
- 今後の更新費用の推計を踏まえ、重大な毀損などが発生する前に修繕を実施することにより、健全な状態を維持しながら長寿命化を図ることで施設のライフサイクルコストを縮減します。
- 建設から一定期間を経過した施設は適宜点検を実施し、長期の活用が見込まれない場合には、積極的に貸付・売却を進めます。ただし、貸付・売却が見込まれない場合には、周辺環境や治安に悪影響を与えないように、速やかに取り壊しを行います。

上位計画である「公共施設等総合管理計画」の基本方針に従い、学校教育施設の長寿命化計画の基本方針として、以下の方針を定めます。

##### 学校施設等長寿命化計画基本方針

- 今後の更新費用の推計を踏まえ、重大な毀損などが発生する前に修繕を実施することにより、健全な状態を維持しながら長寿命化を図ることで施設のライフサイクルコストを縮減します。
- 施設の老朽化が進み、改築が必要となった場合は、複合化もしくは施設の統廃合を優先的に検討することとします。
- 建設から一定期間を経過した施設は適宜点検を実施し、長期の活用が見込まれない場合には、速やかに取り壊しを行います。

#### (2)施設の規模・配置計画等の方針

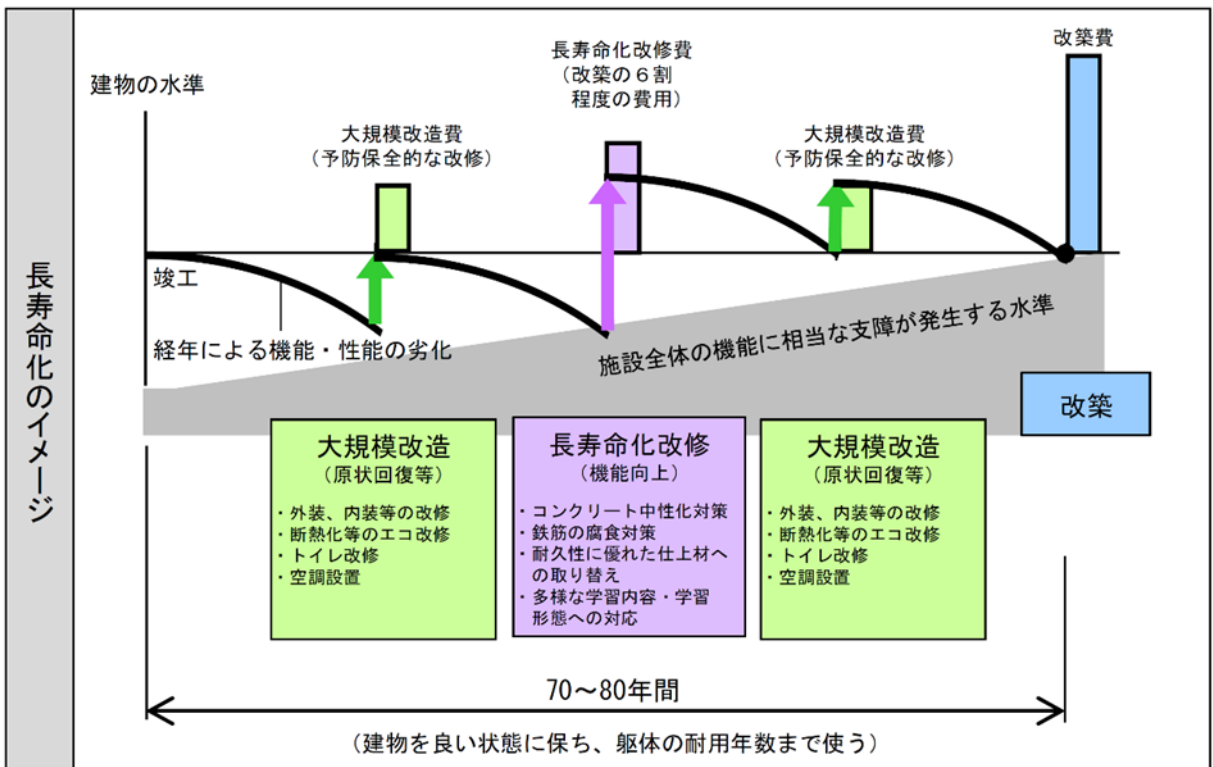
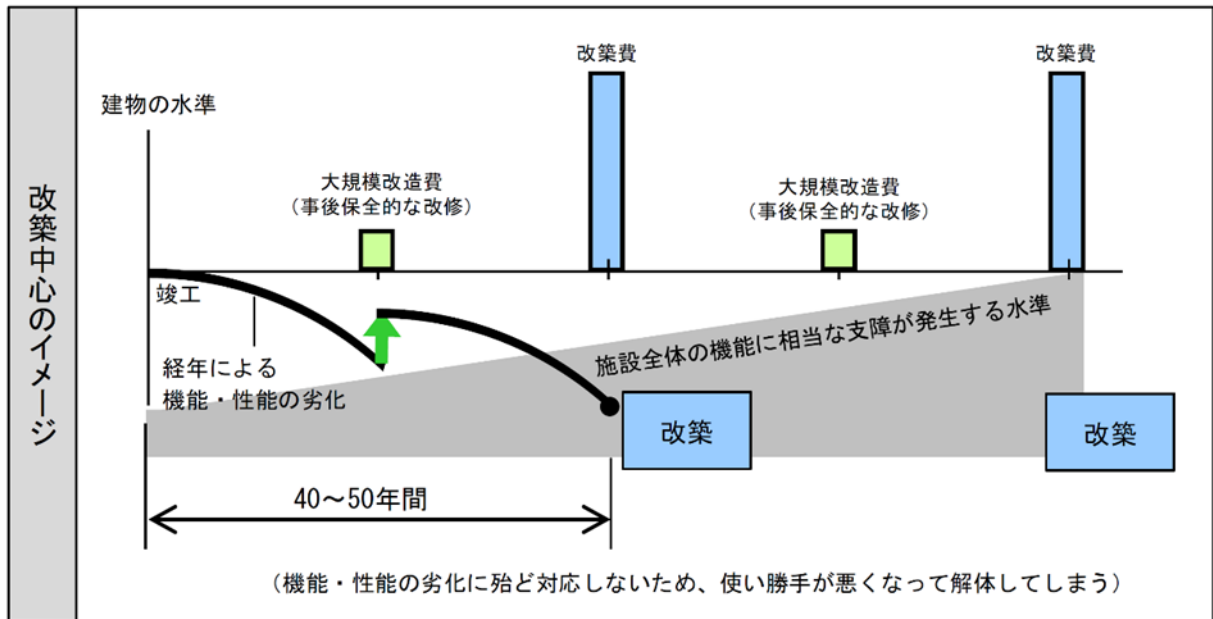
当面は、公共施設等総合管理計画に沿って現状の施設を維持していきませんが、今後の人口動向や児童生徒数の変化と各施設の維持更新コストの両面から検討を行い、施設の更新時期がピークを迎えるまでには学校の統合や校区再編、改築・大規模改造における減床対策、ユニバーサルデザイン化による近隣の公共施設との統合・共有化等、学校として公共施設としての在り方を慎重に検討し、再配置計画の検討を行っていきます。

## 2 改修等の基本的な方針

### (1)長寿命化の方針

建築物の耐用年数には、物理的耐用年数・経済的耐用年数・法定耐用年数・機能的耐用年数など、様々な考え方があります。一般的に耐用年数は、「物理的耐用年数>経済的耐用年数>法定耐用年数>機能的耐用年数」となりますが、これまでの施設の寿命は、最短の機能的耐用年数に近かったのが現状です。

しかし、今後、すべての公共施設等を機能的耐用年数を基準に建替えることは財政制約上困難であり、計画的に保全整備を行うことにより施設を長寿命化して供用期間を延ばし、最長の物理的耐用年数に出来る限り近づけることで、ライフサイクルコストを低減することを目指します。



(2)目標使用年数、改修周期の設定

①目標使用年数

建物の長寿命化の目標として、施設使用の計画期間である「目標使用年数」を設定します。

目標使用年数は、施設の計画的な保全を実施するために設定するもので、「建築物の耐久計画に関する考え方」(日本建築学会)を参考に、本計画では建築物の物理的耐用年数まで使用し続けることを原則とし、目標使用年数を構造別に下表のとおりとします。

<目標使用年数>

構造	耐用年数	
	代表値	目標使用年数
(A) 鉄骨鉄筋コンクリート造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造	60年	80年
(B) 木造・コンクリートブロック造・その他	40年	50年

※基本的には「建築物の耐久計画に関する考え方」に示されている目標耐用年数の最大値(普通品質の場合)を設定しますが、コンクリートブロック造は小規模施設が多いため50年とします。

<建築物全体の望ましい目標耐用年数の級>

用途	鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造		鉄骨造			ブロック造 れんが造	木造
	高品質 の場合	普通 の品質 の場合	重量鉄骨		軽量鉄骨		
			高品質 の場合	普通 の品質 の場合			
学校・官庁	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 40以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 60以上
住宅・事務所・病院	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 40以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 40以上
店舗・旅館・ホテル	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 100以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 40以上	Y <sub>0</sub> 60以上	Y <sub>0</sub> 40以上
工場	Y <sub>0</sub> 40以上	Y <sub>0</sub> 25以上	Y <sub>0</sub> 40以上	Y <sub>0</sub> 25以上	Y <sub>0</sub> 25以上	Y <sub>0</sub> 25以上	Y <sub>0</sub> 25以上

出典：日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」

<目標耐用年数の級の区分の例>

級	目標耐用年数		
	代表値	範囲	下限値
Y <sub>0</sub> 150以上	150年	120 ~ 200年	120年
Y <sub>0</sub> 100以上	100年	80 ~ 100年	80年
Y <sub>0</sub> 60以上	60年	50 ~ 80年	50年
Y <sub>0</sub> 40以上	40年	30 ~ 50年	30年
Y <sub>0</sub> 25以上	25年	20 ~ 30年	20年

出典：日本建築学会「建築物の耐久計画に関する考え方」

## ②改修時期の考え方

建築物を構造別の目標使用年数まで長寿命化するために、定期的な改修サイクルを設定して計画的に予防保全を実施し、施設の安全性・機能性を維持します。構造別の主な改修時期のイメージと工事内容の例は以下のとおりとします。

<改修時期のイメージ>

**(A) 目標使用年数：80年**

- ・鉄骨鉄筋コンクリート造
- ・鉄筋コンクリート造
- ・鉄骨造

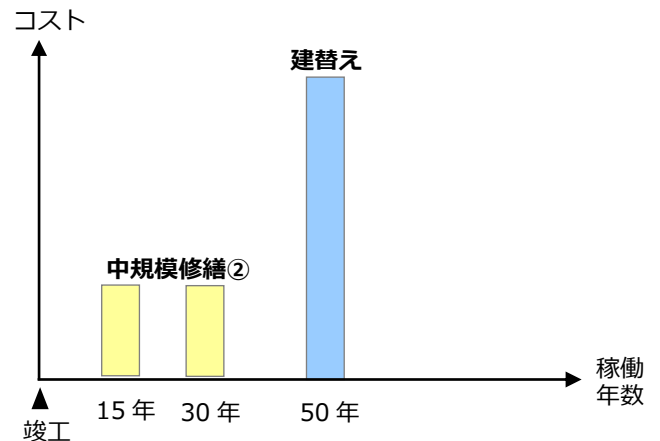
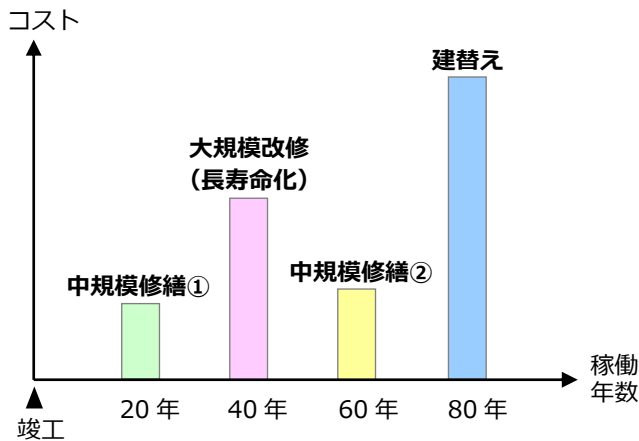
- (1) 築20年で中規模修繕①
- (2) 築40年で大規模改修（長寿命化）
- (3) 築60年で中規模修繕②
- (4) 築80年で建替え

**(B) 目標使用年数：50年**

- ・木造
- ・コンクリートブロック造
- ・その他

- (1) 築15年で中規模修繕②（長寿命化）
- (2) 築30年で中規模修繕②（長寿命化）
- (2) 築50年で建替え

※大規模修繕は原則行わない



<工事内容の例>

中規模修繕①	中規模修繕②	大規模改修（長寿命化）	
経年劣化による損耗、機能低下に対する機能回復工事		経年劣化による機能回復工事と、耐用性・快適性・省エネ性を確保するための機能向上工事	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上防水改修</li> <li>・外壁改修</li> <li>・トイレ改修</li> <li>・内装改修</li> <li>・設備機器改修</li> <li>・劣化の著しい部位の修繕</li> <li>・故障・不具合修繕</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋上防水改修</li> <li>・外壁改修</li> <li>・トイレ改修</li> <li>・内装改修</li> <li>・設備機器改修</li> <li>・劣化の著しい部位の修繕</li> <li>・故障・不具合修繕</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンクリート中性化対策</li> <li>・鉄筋の腐食対策</li> <li>・バリアフリー改修</li> <li>・外壁・屋上の断熱化改修</li> <li>・省エネエネルギー機器への更新</li> </ul>

※工事内容の例は参考に示したものであり、上表以外の内容でもそれぞれの工事の目的に合致するものであれば実施できるものとします。

## 第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 1 改修等の整備水準

施設の改修等では、単なる老朽化に伴う経年劣化や物理的な不具合箇所を修繕するのみではなく、建物の機能及び性能を一定の水準まで引き上げることが目標とし、エネルギー効率向上による省エネ化、維持管理や設備更新の簡易性の向上による維持管理コストの削減、学習環境の向上などの観点を組み入れて、次のような整備水準を設定しました。

今後の長寿命化改修等を実施する際には、計画段階より改修等の費用対効果を考慮して最適な整備を実施していきます。

部位		改修メニュー（整備レベル）		
		整備レベルⅢ （高水準）	整備レベルⅡ （標準）	整備レベルⅠ （最低限）
外部仕上げ	屋根・屋上	外断熱保護防水 （既存撤去）	改質アスファルト防水 （既存の上）	露出防水（シート／塗膜） （断熱なし）
	外壁	外壁塗装 （外断熱）	外壁塗装 （内断熱）	外壁塗装 （断熱なし）
	外部開口部	サッシ交換 （複層ガラス等）	既存サッシのガラス交換 （複層ガラス等）	既存のまま
	その他外部	手すり等の鉄部塗装		
内部仕上げ	教室	LED照明（センサー付き） 壁面の木質化	LED照明 床補修、天井・壁塗替	既存のまま
	トイレ	LED照明（センサー付き） 節水型便器	LED照明 洋式便器	既存のまま
	屋内運動場	LED照明（センサー付き） 空調設備	LED照明 二次部材の耐震対策	LED照明
	給食室	ドライ式調理場		ウェット式調理場
	その他	全棟・全フロアバリアフリー	車いす対策 （エレベーター設置）	既存のまま
設備等	受変電・ 自家発電	自然エネルギー利用	自家発電設備	一般的な仕様
	給排水	雨水・中水利用	災害時対応の受水槽設置	一般的な仕様
	プール	屋内型・温水式	屋外型 （FRP・アルミ・ステン）	屋外型 （RC製）
	グラウンド	芝生・散水スプリンクラー	舗装	一般的な仕様
学習環境	多様な学習の場 / ICT			
生活環境	トイレのドライ化 / 木質化			
省エネ化	太陽光発電 / LED照明 / 高断熱・高気密化			
バリアフリー	エレベーター / 多目的トイレ / 点字ブロック			
防災・防犯	自家発電 / 防犯監視 / マンホールトイレ / カマドベンチ			

## 2 維持管理の項目・手法等

建築基準法第12条に基づく法定点検のほかに、本計画の策定にあたって作成した「老朽化簡易診断問診票」を使用して、所管課職員等による簡易的な施設点検を定期的を実施することで、不具合・危険箇所の早期発見に努めるとともに、各施設の劣化・損耗の状態を把握して予防保全につなげるものとします。

また、原則としてすべての施設について長寿命化を対策の基本方針とし、施設の法定耐用年数を目安に専門家等による老朽化診断を5年おきに実施して、診断結果に基づき具体的な改修計画を見直します。

<点検サイクル案>

点検・診断		H30 (2017)	～	H35 (2022)	～	H40 (2027)	～	H45 (2032)	～
法定点検	建築基準法第12条	○	○	○	○	○	○	○	○
簡易点検	所管課職員等	○	○	○	○	○	○	○	○
老朽化診断	専門家（一級建築士等）	○		○		○		○	

老朽化簡易診断問診票				
財産番号		建物番号		調査年月日
施設名				調査員
建物名				所管課
財産分類		施設類型		建築日
構造		耐用年数	年	耐震診断
延床面積	m <sup>2</sup>	経過年数	年	耐震改修
<b>I. 点検項目(躯体)</b>				
部位	劣化状況 (複数回答可)	仕様 (該当する場合のみ)	修繕 (当年度)	
1. 屋根・屋上	<input type="checkbox"/> 降雨時に雨漏りがある	<input type="checkbox"/> 保護防水(屋上に出られる)		
	<input type="checkbox"/> 天井等に雨漏り跡がある	<input type="checkbox"/> 上記以外の屋上		
	<input type="checkbox"/> 防水層に膨れ等がある	<input type="checkbox"/> 勾配屋根(金属板葺等)		
	<input type="checkbox"/> 屋根材に錆・損傷がある	<input type="checkbox"/> その他の屋根		
	<input type="checkbox"/> 屋根・屋上を目視点検できない			
2. 外壁	<input type="checkbox"/> 鉄筋が見えているところがある	<input type="checkbox"/> 石・タイル張り		
	<input type="checkbox"/> 外壁から漏水がある	<input type="checkbox"/> コンクリート		
	<input type="checkbox"/> タイルや石が剥がれている	<input type="checkbox"/> 吹付け		
	<input type="checkbox"/> 外壁・基礎等に大きな亀裂がある	<input type="checkbox"/> その他の外壁		
	<input type="checkbox"/> 塗装の剥がれがある			
3. 外部開口部	<input type="checkbox"/> 窓・ドアの周りで漏水がある	<input type="checkbox"/> 普通サッシ・単板ガラス		
	<input type="checkbox"/> 窓・ドアに錆が多くみられる	<input type="checkbox"/> 断熱サッシ・省エネガラス		
	<input type="checkbox"/> 窓・ドアに歪みがあり開閉できない	<input type="checkbox"/> 防音サッシ		
4. 室内	<input type="checkbox"/> コンクリートの床・壁に亀裂がある	<input type="checkbox"/> 高い天井の大空間		
	<input type="checkbox"/> 天井が破損し、落下の危険がある			
	<input type="checkbox"/> 床仕上げ材に使用上の支障がある			
5. 外構	<input type="checkbox"/> 地盤沈下による不具合がある	<input type="checkbox"/> 組積造・OB造の塀		
	<input type="checkbox"/> 塀・擁壁に倒壊の危険がある	<input type="checkbox"/> 擁壁		
	<input type="checkbox"/> 塗装に凸凹が多く崩壊の危険がある	<input type="checkbox"/> フェンス		
<b>II. 点検項目(躯体以外)</b>				
部位	劣化状況 (複数回答可)	仕様 (該当する場合のみ)	修繕 (当年度)	
1. 電気設備	<input type="checkbox"/> 機器が全面的に錆びている	<input type="checkbox"/> 埋め込み型照明		
	<input type="checkbox"/> 照明器具落下の危険がある	<input type="checkbox"/> 吊り下げ型照明		
	<input type="checkbox"/> 機器が頻りに故障する	<input type="checkbox"/> 特殊設備(高圧、蓄電池等)		
	<input type="checkbox"/> その他の指摘がある	<input type="checkbox"/> 自家発電設備(太陽光含む)		
2. 給水設備	<input type="checkbox"/> 水質・水量等で使用に支障がある	<input type="checkbox"/> 直結方式(ポンプ、水槽等なし)		
	<input type="checkbox"/> 給水ポンプで異音、漏水がある	<input type="checkbox"/> ポンプ、受水槽、高置水槽		
	<input type="checkbox"/> その他の指摘がある			
3. 排水設備	<input type="checkbox"/> 衛生器具等で使用に支障がある	<input type="checkbox"/> 下水道接続		
	<input type="checkbox"/> 排水ポンプで異音、漏水がある	<input type="checkbox"/> 浄化槽		
	<input type="checkbox"/> その他の指摘がある			
4. 空調設備	<input type="checkbox"/> 空調機器等で使用に支障がある	<input type="checkbox"/> 個別方式		
	<input type="checkbox"/> 異音、異臭、漏水がある	<input type="checkbox"/> 中央方式		
	<input type="checkbox"/> その他の指摘がある			
5. その他設備	<input type="checkbox"/> 通常使用に支障がある	<input type="checkbox"/> エレベーター等の昇降機		
	<input type="checkbox"/> 頻りに故障する	<input type="checkbox"/> 機械式駐車設備		
	<input type="checkbox"/> その他の指摘がある	<input type="checkbox"/> 融雪装置		
<b>III. その他、要望等があれば自由に記入してください。</b>				

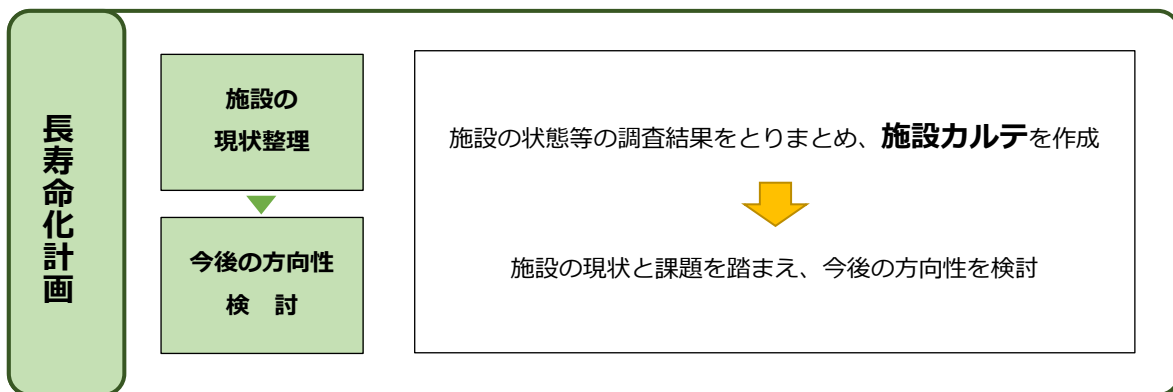
## 第6章 長寿命化の実施計画

### 1 改修等の優先順位付けと実施計画

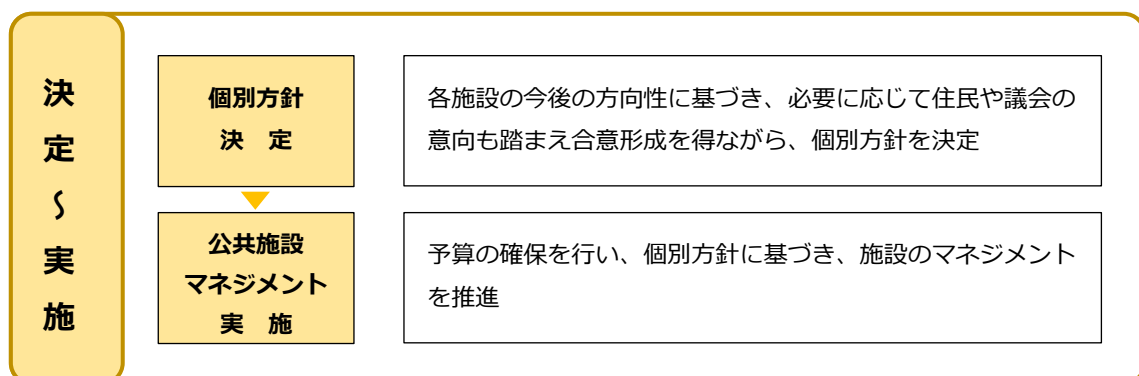
本計画で示した個別施設ごとの今後の方向性を基に、財政状況を考慮しながら、施設の安全性・機能性・経済性・代替性・社会性などの視点から、今後の保全等にかかる優先順位を検討します。また、必要に応じて住民や議会等とも合意形成を得て方針決定を行い、計画的に予算を確保し、施設のマネジメントを進めます。

ただし、すでに利用されている公共施設等において、安全性が損なわれている施設や機能性が著しく低下している施設については、優先的に改修等を実施する方針とします。

<優先順位の考え方>



視 点	優先順位を高める要因
安全性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 放置しておくで利用者に直接・間接の物理的被害や大きな施設の滅失が予見されるもの</li> <li>・ 敷地周辺に悪影響（騒音・振動・著しい美観の喪失等）を与えており、解消が求められるもの</li> <li>・ 改修により施設の長寿命化・耐震化等、安全性の確保が明らかに見込まれるもの</li> </ul>
機能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設置当初の本来の要求事項が満たせなくなっており、その改善を行うもの</li> <li>・ 避難場所等に指定されており、災害発生時を想定し健全な状態を特に維持しておくことが必要と判断されるもの</li> </ul>
経済性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防保全により、将来のライフサイクルコストの低減が見込まれる状況にあるもの</li> </ul>
代替性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設や機能として替えが効かない、または故障時に部品等の確保が困難なもの</li> </ul>
社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民・社会のニーズの変化により、利用者満足度を満たせなくなったもの</li> <li>・ 環境負荷低減に貢献するもの</li> </ul>



(1)改修等の優先順位

本計画対象建物の基本情報と、本計画策定において実施した老朽化実態調査の結果が以下の表です。建築から30年以上経過している建物は着色しています。また、1982年以前の旧耐震基準で建築され、その後に耐震改修を行っていないもの、耐震診断を実施していないものは健全性評価が「改築」となっています。

ここに掲載された評価順はあくまでお建物の躯体構造上を客観的に判断したものであり、絶対的な評価結果とはいえませんが、改修等の優先順位を決める上で大きな指標となるものです。

建物情報一覧表

建物基本情報														構造躯体の健全性				劣化状況評価					備考	
通し番号	学校調査番号	施設名	建物名	棟番号	固定資産台帳番号	用途区分		構造	階数	延床面積(m <sup>2</sup> )	建築年度		耐震安全性			長寿命化判定		屋根・屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備		健全度(100点満点)
						学校種別	建物用途				西暦	和暦	基準	診断	補強	調査年度	圧縮強度(N/mm <sup>2</sup> )							
1	0448	泉崎第一小学校	校舎1(プール付属室)	002-3		小学校	校舎	S	1	33	1969	S44	51	旧									51	
2	0448	泉崎第一小学校	校舎2(ポンプ室)	003-2		小学校	校舎	S	1	6	1979	S54	41	旧									0	未調査
3	0448	泉崎第一小学校	校舎3(特別教室棟)	004		小学校	校舎	RC	2	399	1983	S58	37	新									75	
4	0448	泉崎第一小学校	校舎4(プール付属便所)	002-4		小学校	校舎	S	1	7	1985	S60	35	新									82	
5	0448	泉崎第一小学校	校舎5(普通教室棟)	008		小学校	校舎	RC	1	3,631	1994	H6	26	新									62	
6	0448	泉崎第一小学校	屋内運動場	003-1		小学校	体育館	S	1	905	1979	S54	41	旧	済	済	2006						49	
7	0449	泉崎第二小学校	校舎1(プール付属室)	007		小学校	校舎	S	1	47	1968	S43	52	旧									36	
8	0449	泉崎第二小学校	校舎2(物置)	006		小学校	校舎	S	1	43	1974	S49	46	旧									0	未調査
9	0449	泉崎第二小学校	校舎3(ポンプ室)	008		小学校	校舎	RC	1	6	1981	S56	39	旧									77	
10	0449	泉崎第二小学校	校舎4	011-1~4		小学校	校舎	RC	2	3,629	1989	H元	31	新									46	
11	0449	泉崎第二小学校	屋内運動場	009		小学校	体育館	S	1	905	1981	S56	39	旧	済	済	2006						75	
12	3724	泉崎中学校	校舎1	009-1.2		中学校	校舎	RC	2	3,825	1987	S62	33	新									62	
13	3724	泉崎中学校	校舎2(部室)	011		中学校	校舎	S	1	75	1988	S63	32	新									75	
14	3724	泉崎中学校	屋内運動場	010-1~3		中学校	体育館	RC	1	2,099	1988	S63	32	新									0	未調査
15	6696	泉崎幼稚園	園舎1	004-1-2		幼稚園	園舎	RC	1	2,030	1995	H7	25	新									62	
16	6696	泉崎幼稚園	園舎2(屋外便所)	005		幼稚園	園舎	S	1	41	1995	H7	25	新									72	
17	k.601	泉崎村学校給食センター	車庫	003		給食センター	その他	S	1	66	1973	S48	47	旧									46	
18	k.601	泉崎村学校給食センター	調理室棟	001		給食センター	給食センター	S	1	282	1974	S49	46	旧									36	
19	k.601	泉崎村学校給食センター	ポンプ室	002		給食センター	その他	S	1	11	1974	S49	46	旧									46	

(2)実施計画

施設の長寿命化においては、老朽化実態調査から得られた健全度を目安として、建築からの経過年数や屋上・屋根のD評価となった施設を優先的に考慮のうえ、大規模改築と長寿命化改修を基本とした実施計画検討に取り組んでいきます。

整備基準として、構造躯体の健全性が確保される施設とし、中でも緊急性の高い建物を優先的に整備していきます。長寿命化改修にあたっては、必要に応じて構造躯体の健全調査を追加で行うものとし、部位修繕については、施設管理担当者や利用者からの要望も聞き入れ、緊急性を要する建物を優先的に整備していくこととします。

## 2 長寿命化のコスト見通し・効果

最後に、学校教育系施設全体の長寿命化による維持・更新コストの見通しと効果を従来型のものと比較しました。下表の通り、学校教育系施設で計画期間におけるコスト総額は、従来型のコストが総額 95 億円（年平均 2.4 億円）だったものに対して、長寿命化型では総額 74 億円（年平均 1.8 億円）で 21 億円の経費節減が見込める試算となりました。

これはあくまで、現施設を全て現状のまま維持した場合のコストであり、統廃合や集約化による施設数が減少すれば、更にこの費用は減少することとなり、長寿命化計画の効果は絶大であるといえるでしょう。

もう一方で、コストの平準化についても期待されるところでしたが、こちらはこれまでに必要とされていた改築や大規模修繕が実施されていなかったことから、優先順位を決めた上でバランスよく実施することで、期待以上の効果を生み出すことが期待されます。

施設維持方式	学校教育施設
従来型	95億円(2.4億円/年)
長寿命型	74億円(1.8億円/年)
差額	▲21億円▲0.6億円/年)

## 第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

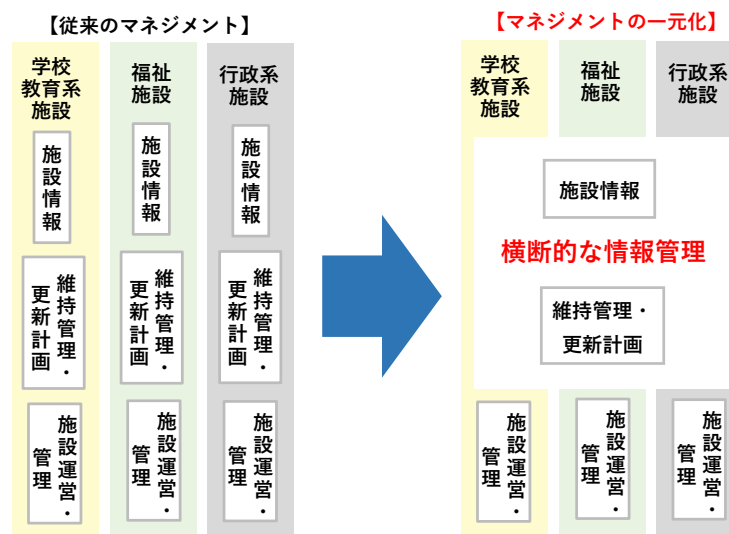
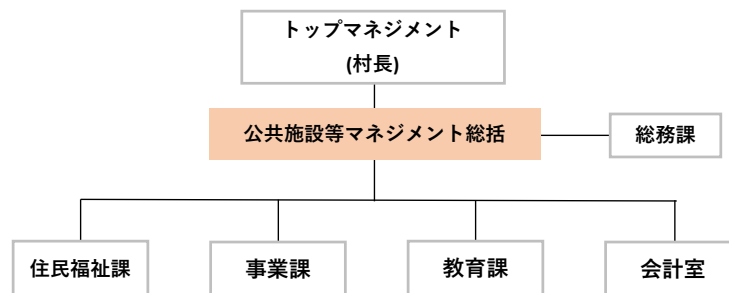
### 1 情報基盤の整備と活用

本計画を継続的に運用していくため、公共施設に係わる基本情報や建築当初の仕様や図面、設備等の情報、現在の利用状況や劣化状況、劣化度評価、既存の点検結果や修繕履歴等を一元化管理し、継続的に更新していくことが重要かつ必要となります。

公共施設のデータベースの整備等により建物の劣化状況を総合的に把握し、修繕・更新等計画の見直し・更新に活用を図っていきます。

### 2 推進体制等の整備

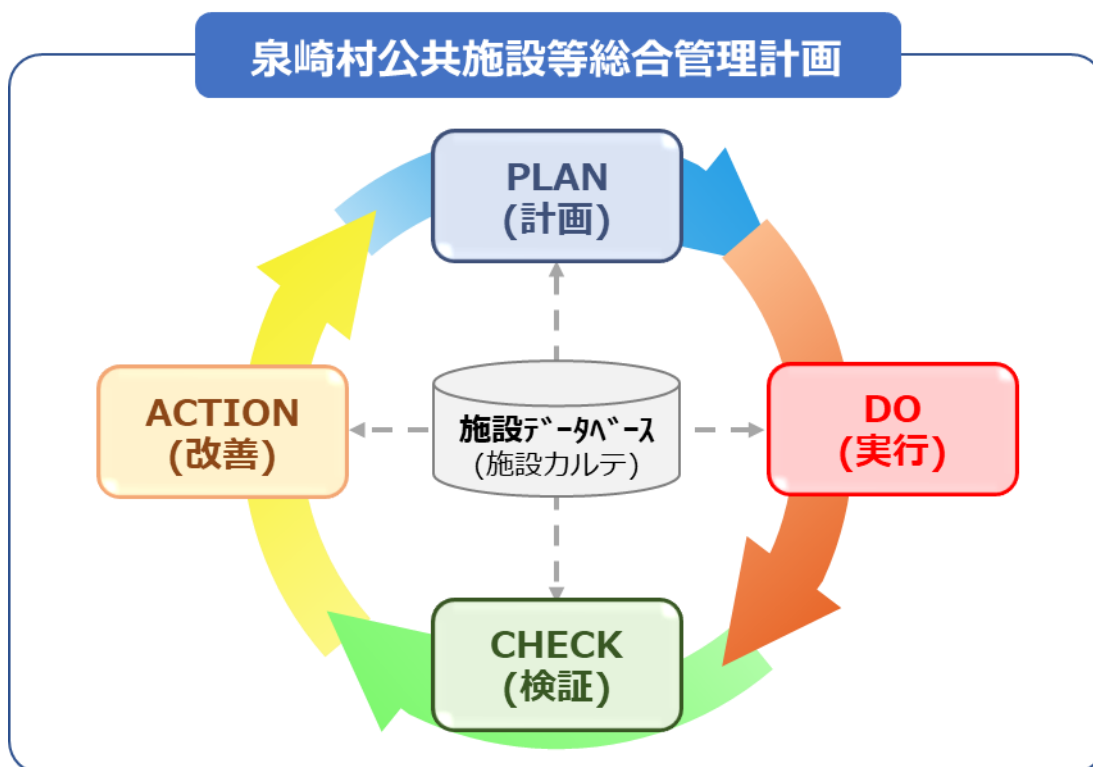
本計画を着実に実施していくためには、全庁的な推進体制の整備が不可欠です。そのため、職員及び部局間の連携強化、公共施設等の情報共有、有効活用や長寿命化に向けての取組の推進、固定資産台帳の更新、公共施設等マネジメントの実施、建物等の維持管理等に関する必要な研修等を行います。また、本村に隣接する自治体間の情報共有を積極的に行い、計画推進に関する相互利用、災害時の避難対応等について、広域的な連携を行います。



推進体制のイメージ

### 3 フォローアップ

本計画は、実効性を確保するため、P D C Aサイクルを活用して、継続的な取組を行い、今後の財政状況や環境の変化に応じて、適宜見直しを行います。また、公共施設等の適正配置の検討にあたっては、議会や村民に対して随時情報提供を行うことで、村全体での公共施設等に関する認識を共有します。





## 泉崎村 学校施設等長寿命化計画

令和3年3月

発行 泉崎村

企画・編集 泉崎村 教育委員会

〒969-0101

福島県西白河郡泉崎村大字泉崎字八丸 145 番地

TEL:0248-54-1533 Fax: 0248-53-2958